

希望の鐘

第169号

ひとつのつぼみはいちどしかひらかない

令和2年度の学校経営方針、教育・努力目標、学校目標等をお知らせします。4月に配布した参観日資料の中にもありましたが、学校目標がまだ決まっておられませんでしたので、ここでお知らせいたします。学校目標とは、簡単に言いますと「ここが弱いので、これを克服できればもっと生徒が伸びていくだろう」という部分で、昨年度の学校評価アンケートや教育課程編成会議での話し合いの内容と、長期の臨時休業による学力低下が懸念されることから今年度の学校目標を決めました。子供たちのよりよい成長のため、安全・安心を最優先するとともに、保護者や地域の方々と協力しながら教育活動を進めてまいりたいと思います。

1 経営の基底

学校は生徒が安心して生活できる場、そして、安全に過ごせる場でなければならない。間違ってもいじめや体罰の問題を背景に、その命を絶つ事案が発生してはならない。いじめ、体罰等の課題への対応を徹底し、生徒たちの安全、安心を確保しなければならない。また、新型コロナウイルスの流行やスマホ、パソコン等の間違った使用方法による情報の流失等、現代社会では生徒は常に危険と隣り合わせの状態にあるといっても過言ではない。

安心して生活できる学校とは、一日の大半を過ごす学校がホッとできる空間、生徒一人一人の存在が大切にされる空間となっていることである。それは、生徒同士が信頼の絆で結ばれ、互いに信頼し合い、所属意識が高い学校の姿である。このような学校をつくるためには、すべての教育活動において、生徒指導の三機能（自己決定の場を与える、自己存在感を与える、共感的人間関係の育成）を生かした教育を行うことが重要であると考えられる。それは、生徒同士、生徒と教師との共感関係を育み、生徒一人一人の居場所や活躍の場の存在につながり、ひいては自己有用感、自己肯定感の高揚となる。

安全に過ごせる学校とは、安全対策と危機管理が行き届いた学校である。年間で計画されている避難訓練や安全教室、防犯教室等で規則を守り、安全に行動できる態度や自らが危険を予測し、回避する力をもった生徒を育成しなければならない。また、小中野地区は海に面しているため津波の被害にあうことも十分に考えられる。避難所運営訓練等を通して、日頃から地域社会や家庭と連携を図り、自他の生命を守り、地域の安全に貢献する態度を有する生徒を育むことも必要である。

安心・安全な学校とは、イコール幸せな学校ともいえる。生徒にとって幸せとは、何より教師に恵まれることであると考えられる。生徒を我が子のように指導、対応する教師がいる。そんな学校でありたい。小中野中学校全教職員は安心・安全で、「命」を大切に一生懸命生きる生徒の育成に全力であたる。

2 基本方針

青森県教育委員会及び八戸市教育委員会の方針と重点を踏まえ、全教職員が協調と責任をもって学校運営に参画し、教育目標と努力目標の具現化、そして学校目標の達成に努めることとする。また、先に述べた生徒の生命を守り、安心・安全のもと、一人一人の生徒が夢と希望を抱きながら自立し、社会に貢献できる人材を育成したいと考える。発達段階を考慮しつつ、知・徳・体の調和のとれた「心豊かで、確かな学力を身につけた、生活力のあるたくましい生徒」の育成に努めたい。また、情報通信技術の進歩、グローバル化の中、正しい判断のもと、多様化する社会を生き抜く力も養わせたい。このことは、本校の教育目標である「しなやかに たくましく 生き抜く生徒」に結びつくと考えられる。

「生徒が学校の主人公である」という認識のもと、個を生かし生きる力を育ませるためにも、次の3つの「がっこう」を基本概念とし、積極的に教育目標の具現化を図っていききたい。

学校～確かな学力を身につけさせる場として～

楽校～心を耕し、より良い人間関係を構築する場として～

合校～家庭や地域の願いを反映させる場として～

3 教育目標

- (1) 校訓 ひとつのつぼみはいちどしかひらかない
- (2) 教育目標 しなやかに たくましく 生き抜く生徒（平成26年度設定）
- (3) 努力目標 ○志をもって、自ら学ぼう（知）
○心豊かに互いを大切にしよう（徳）
○粘り強く心身を鍛えよう（体）（平成26年度一部改訂）

4 令和2年度 学校目標 「主体的に学習に取り組む生徒の育成」

〈重点施策〉

- ① 委員会活動等を通しての、衛生面への注意喚起や基本的な生活習慣確立の呼びかけ。
- ② 「こなノート」、「自学ノート」を活用しての、学習に対する主体的取組の奨励。
- ③ 学びに向かう力を身に付けさせるための授業の工夫、実践。
- ④ 生徒指導の3機能（自己決定の場を与える、自己存在感を与える、共感的な人間関係の育成）を生かした自己肯定感及び相互信頼関係の構築。

〈評価基準〉

- ① 学校評価アンケートを実施し、衛生面への配慮、基本的な生活習慣の評価を80%以上とする。
- ② 学校評価アンケートを実施し、「こなノートの活用」、「授業が分かる」という評価を80%以上とする。
- ③ 年3回、自己目標シートをもとに面談を行い、授業の工夫、実践の様子を確認する。
- ④ 学校評価アンケートを実施し、「自己有用感」「自己肯定感」の評価を80%以上とする。

令和2年度スタッフ紹介

- 校長 高橋 直浩 社会
- 教頭 石澤 陽 保体
- 教務主任 十文字 英一 技術
- 1年主任 佐藤 正博 社会
- 副主任 土川 真紀子 英語
- 1組 市川 達弘 数学
(生徒指導主事)
- 2年主任 館 美穂子 国語
(研修主任)
- 1組(副主任) 一ノ渡 正人 英語・美術
- 2組 菊池 佳子 理科・保健
- 3年主任 島守 克則 理科
(進路指導主事)
- 1組(副主任) 下沢 有希 国語
- 2組 小笠原 純子 数学・家庭科
- 3組 工藤 裕子 音楽
- 養護教諭 沢目 恵里奈
- 事務主事 千葉 新夏
- 技能主事 鈴木 憲剛
- PTA事務 中里 公子
- 給食配膳員 工藤 ふみえ
- ALT ダグラス・アダムス
- 特別支援アシスタント 月館 多香子
- スクールカウンセラー 平野 日枝子
- 部活動
- 野球部 島守 克則 佐藤 正博
- ソフトテニス部 一ノ渡 正人
- 剣道部 菊池 佳子
- バレーボール部 下沢 有希 小笠原 純子
- 卓球部 市川 達弘 十文字 英一
- 吹奏楽部 工藤 裕子 土川 真紀子
- 報道部 館 美穂子

朝の挨拶運動スナップ写真

